

ウクライナ緊急事態

© REUTERS/Alexander Ermochenko



家を追われたウクライナの人々への緊急支援が急務

ウクライナ国内で私たち職員と他の人道主義者たちは、恐ろしい状況下でも、
できるところからできる時に、活動をしています。

大きな危険を冒してでも、

私たちがウクライナで必要とされていることを分かっているからです。

フィリップ・グランディ国連難民高等弁務官

2022年2月24日にウクライナで発生した軍事行動により、情勢が急激に悪化したことで、多くのウクライナの人々が避難を強いられています。激しい衝突は多くの民間人の死傷者を生み出ただけでなく、インフラ施設も破壊され深刻な人道危機を引き起こしています。すでに子どもや民間人を含む**1200万人***のウクライナ人が国内で人道支援を必要としており、**150万人以上***が安全を求めて、ポーランドやハンガリー、モルドバやルーマニアなどの周辺諸国に避難し、難民となっています。国内や近隣諸国、国外へと避難する人々の数は日に日に増え続けており、UNHCRは**最大で400万人***のウクライナ人が避難を強いられると推定しています。(※2022年3月7日時点)

軍事行動が開始される以前から2014年のウクライナ東部で発生した紛争により、国内ではすでに人道ニーズが高い状況にある中、今回の軍事行動によりウクライナの人々はこれまでにない危機に直面しています。**今、ウクライナの人々の命を守るため、緊急の人道支援が急務となっています。**UNHCR(国連難民高等弁務官事務所)は、世界の難民・避難民を保護・支援する国連の難民支援機関で、1994年からウクライナで支援活動を開始。何千人もの民間人が犠牲となった2014年のウクライナ紛争勃発後も銃撃が止まないドネツクやルハンシクなどで国内避難民などの支援対象者に重要な救援物資やシェルターを提供してきました。今回の危機においても、UNHCRはウクライナに留まり、ウクライナや近隣諸国の政府やパートナー団体と連携して支援を拡大し、極寒の東欧で避難を強えられるウクライナの人々に緊急支援を届けています。**ウクライナの人々の命を守るために、いま、皆様のお力が必要です。**

通話料
無料

クナンニ イチハヤク
0120-972-189
(平日10時~19時)

国連 難民



国連UNHCR協会はUNHCR(国連難民高等弁務官事務所)の公式支援窓口です。当協会へのご寄付は、税控除(税制優遇)の対象となります。皆様のご支援は、UNHCRが最も必要性が高いと判断する援助活動に充当させていただきます。

あなたのご支援で できること



© UNHCR/B. Blanc

ウクライナ国境付近のモルドバ・パランカに設置された一時滞在センター



© UNHCR/A. Vlasova

56,000円のご寄付で

心に傷を負ったウクライナの
子どもたちのための
社会心理的サポート (5人分)



© UNHCR/A. Sheherbyna

25,000円のご寄付で

ウクライナから逃れる避難民のための
法的カウンセリング (8人分)



© UNHCR/A. Vlasova

11,000円のご寄付で

極寒の中で避難を強いられる
ウクライナの人々を守る
フリース製の毛布 (15人分)



ウクライナから避難し、ポーランドの国境メディカから入国する人々

© UNHCR/C. Melzer

UNHCRの ウクライナ近隣諸国における支援活動

- UNHCRは、ハンガリー、ポーランド、ルーマニアなどに拠点を置き、緊急事態の状況を鑑みて各国事務所の強化や遠隔支援を行うため、職員の配置・増員を進めています。
- ウクライナから到着する人々への支援を拡大するため、ポーランドなどの各国備蓄倉庫から救援物資を輸送し、支援にあたります。
- 輸送される救援物資の中には、フリース製の毛布、敷布団、テント、防寒具、寝袋、給水容器、衛生用品、ソーラーランプなどが含まれています。



© UNHCR/O. Anan

ドバイの備蓄施設から、ウクライナへと輸送される救援物資。この船には、15トンの保温毛布（約8000枚分）が積み込まれている。

UNHCRの ウクライナ国内における支援活動

- UNHCRは現地に留まり、状況が悪化し避難民数が増加する中でも、アクセスが確保される限り支援活動を継続します。
- UNHCRは国内6か所に事務所を構え、3か所に支援物資を保管する倉庫を設けています。
- 今回の軍事行動により避難を強いられている人々やその影響を受けた人々、その他支援を必要としている人々への緊急支援にあたっています。
- 避難民の保護や、シェルターを含む主要な救援物資の提供、難民の様々なニーズに対応する現金給付支援などに尽力しています。



© UNHCR/A. Rudyk